

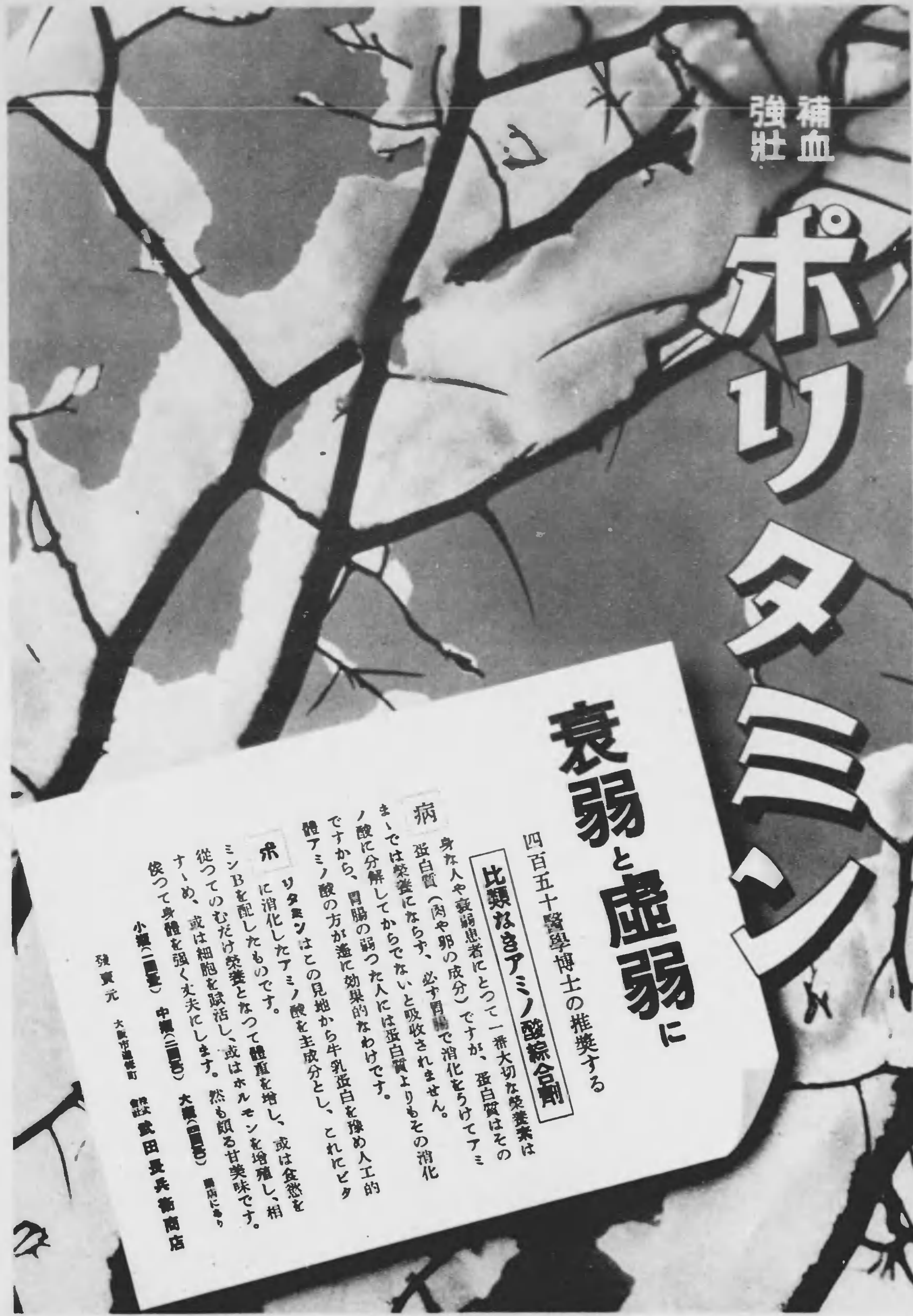
寫眞週報

編輯部報情閣内
ンセ十・號九十四第・日五廿月一

昭和十一年十一月五日 星期一 第九十四號 第十卷 寫眞週報 編輯部報情閣内

上海明暗二相





補血 強壯

ポリビタミン

衰弱と虚弱に

四百五十醫學博士の推奨する

比類なきアミノ酸綜合劑

身な人や衰弱患者にとつて一番大切な栄養素は蛋白質(肉や卵の成分)ですが、蛋白質はそのまゝでは栄養にならないと吸収されません。

病 蛋白質(肉や卵の成分)ですが、蛋白質はそのまゝでは栄養にならないと吸収されません。

ノ酸に分解してからでないといは蛋白質よりその消化

ですから、胃腸の弱つた人には蛋白質を豫め人工的

體アミノ酸の方が遙に効果的なわけでは、これにビタ

リタミンはこの見地から牛乳蛋白質を豫め人工的

に消化したアミノ酸を主成分とし、これにビタ

ミンBを配したものです。或は食欲を

増進し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

対してのむだけ栄養となつて體重を増殖し、相

お天気が直ぐ晴れて暖かい日曜日、東京城外明神原に於ける。奇麗な石馬がすうりと彼を長い歩道を歩かせる。向ふから本旗と支那旗が肩を並べて歩いていた。東京放送局のアナウンサーとタイピストが来た。

撮影 内閣情報部

部隊の炭焼



1 手に手に鋸を握って雑木林に入り込んだ勇士たちは強力を鼓ひつゝ梢や樫を景よく切り倒す。

2 「枝はきれいに拂つて、これ位の長さで切り揃へてくれ」と炭焼司令がほろり出した丸太を手本に皆は支那式の鉋や斧を振ふ。

3 切り揃へるとこれをいくつかの恰好の山に積み、枯葉をのせて火をつける。火の廻り具合を見て炭焼司令は「土をかける」と怒鳴つた。土をかぶせて蒸さうといふのだ。序でに雨が降つても大丈夫なやうに覆板を作つておく。



こゝは第一線の岳州からヤ、後方のが警備地区、廣い雑木林を後ろにひかへて勇士たちが大奮で炭を焼いてゐる。

北支那の戦線に比べれば警備の寒さはさほどではないが、夜になると猛烈な寒気が襲つてくる。警備の勇士たちはこの寒さを凌ぐためにはじめは薪を燃やして暖をとつてゐたが、敵に明りを見せる不利があり、内地で使ひなれた炭火が欲しくなつた。「炭焼なら俺が知つてる」と幸ひ農學校出の専門家がいたので早速その兵隊の指導で炭焼がはじまつた。

このあたりは地形風物がかく内地そっくりで、炭を焼くにも柵や樫の雑木林が多くて都合がよい。思ひ出したやうに聞えてくる経歴を炭焼司令の手に警備非番の勇士たちは本炭の自給自足に餘念がない。

4 ぶす／＼と燃る土の山はそのまゝにして一週間もたつと煙がづひに出なくなつた。山の高さも低くなつた。「そろそろ」と炭焼司令は命令した。

5 スコップで少し土を拂ひのけると、出てきた、出てきた。真黒な、なつかしい炭が。

6 どの山も、炭焼きは上出来、支那籍に長い入れて警備隊本部に運んでくると部隊長殿も「これは良い炭だ。今晚から暖かく寝られるぞ」と大喜び。

撮影 内閣情報部



佛租界を北上し、津浦線沿いの貧民窟を歩く。夜の闇が、人々の顔を照らす。多くは顔が暗く、その眼は死んだように見える。多くは顔が暗く、その眼は死んだように見える。



佛租界の浮世草子、ウイキアトと支那の悪徳商人の集まる場所。多くは顔が暗く、その眼は死んだように見える。多くは顔が暗く、その眼は死んだように見える。



佛租界の繁華。馬車と人力車が行き交い、人々の足音が続く。



佛租界の浮世草子、ウイキアトと支那の悪徳商人の集まる場所。多くは顔が暗く、その眼は死んだように見える。多くは顔が暗く、その眼は死んだように見える。



佛租界の繁華。多くの商店が軒を並べ、人々の往来が絶えず。

西洋人の女たち。夜の静寂から目を覚まし、優雅な生活を営む。



佛租界の夜の娯楽。ダンスホールで楽しむ人々の姿。



佛租界の夜の静寂。一人の姿が、夜の闇を照らす。

海の時黒面

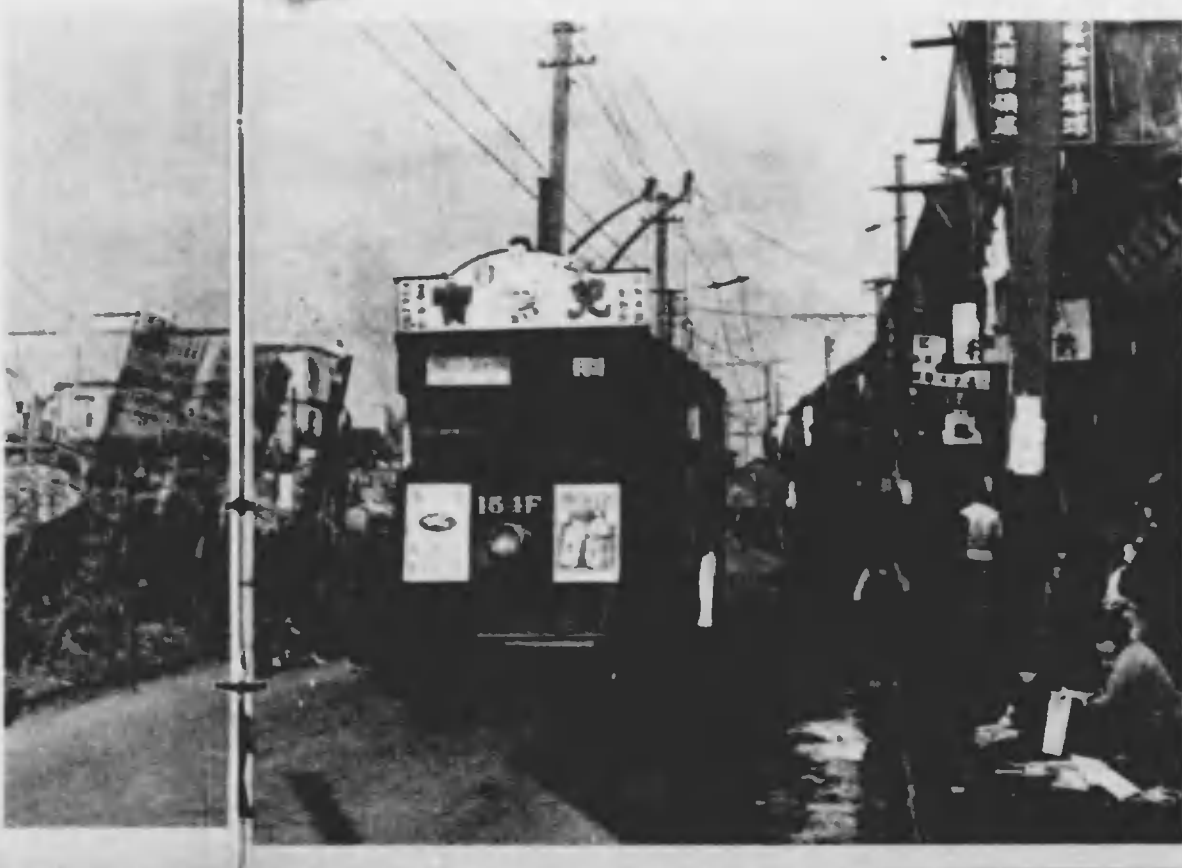
蒋介石が日本の勢力を退けようとした上海が、五月の真夜中に、暗黒の世界へと陥った。多くの犠牲者を出し、多くの苦しみを生み出した。

海上の朗明色

虹口支路の平和な一日。街並をつくる日の丸の下を日本のバスが通つてゐる。支那の黄包車も威勢がよい。行人の冬服にはあたりかい騒がしがふりそよいでゐる。



同じ支那の子供たちでも租界の浮浪児にくらべて、こゝの子供たちは何と恵まれてゐることだらう。抗日教育はもう昔の夢。假校舎だといへこいで子供たちは嬉々として東洋平和の道を學んでゐる。



幸福な支那人。老翁と少女。衣食足つて禮節を知る。



バスの通つてゐる路をもう一步横に入ると人々の安居樂業のさまはなほ一層よくわかる。

上海のガーデンプラツチから虹口に一步入ると日本の資本で新しい乗合自動車も動いてゐる。ブロードウェイマンソンの起點から吳淞クリックの、その名も新しい白川橋のピカ／＼の音も軽快にカーヴを切つてゆく。



撮影 上海プレス・ユニオン及、内閣情報部



カネウチの 七

大砲の轟音には足さぬ方面の人が動員され、凡庸な方面に死傷を蒙りながら戦っている。カネウチは生命に懸けるが、その真意は苦悶もその一つであつて、敵をもつたそのおそれと何ら懸念も持たない。ここに運搬する一文は昨年徐州戦に「敵と兵隊」の火野軍曹と同行したカネウチ、更に漢口攻勢中に従軍した中支派軍中支派隊官梅本左馬次が最近戦線からもたらした生々しいカメラマン筆談記録である。

★寒夜

戦線の夜寒に、ふと眼を醒めて、真実を考へてみる。土の冷たさは、腰から腹にしみたり、肝臓の何だと言ふ内臓を、冷やし切つてゐる。流れる寒さが、冷たい氷のやうに脊を切開いて、骨髄の白い神経に、凍る乳先をあてゝゐる。そして、たつと真実と自分が頭へ来る。寒い。ガチ／＼と歯がなりさうになる。呑み込む塵が、他人の口液のやうに不愉快だ。そして真実を考へて、別に何とも思ふわけではない。ほんとうを言ふと、眼が醒めた瞬間に、わが生涯と真実と運命と言つたものががすかに頭の中を走つた。うたわぬあのの気持にすぎないのだが、こんな瞬間に一發くらつて、死ぬのなら死ぬでもいい。護國の鬼にはなれないけれど、佛になれさうな気がする。

何の問題もないと考へる。小松林の陣地で、間に眼を光らせ、徹兜の紐を頬に喰ひいらせ、泥まみれになつて寝もやらぬ兵隊に、済まないと思ふ。追撃砲は五六發つづけて来る。更に二百米ばかり向ふの、一文の寒地に居る敵は、六門位の追撃砲を持つてゐる。その向ふの山には野砲が居るのだが、それは打つて来ないらしい。それよりもわれ／＼の右翼四十五度後方の銃聲はどうか。タタタタタと言ふチエツコ銃銃の音が、何十種も重なり合ひ、もつれ合ひ、追つかけあつて聞える。

タンタンと弾んでゐるのもあるし、なかにコンコンと、あれで鉛の弾丸が飛びだしてゐるのと思へるほど、やけに軽くひびいてゐるのがある。角度と反響の工合でさう聞えるのだから。火薬と銃口と鉛の音楽になつてゐるダツダツダツと言ふ友軍の重機銃も盛に打つてゐる。それが今夜は小銃も軽機銃も盛に打つてゐる。それどころか、今打ち合つてゐるのは右翼の友軍の夜襲隊行なのである。朝まで右翼が出てわれわれと頭をそろへ、そして明日は全線の總攻撃にならうとしてゐる。好い天気になつてくれれば好い、露の空には雲が低いし、空気がしめつぽい。しかし降りはしないだらう。何とか好い真実をたつてみようではないか。

僕は今度の戦争の始めごろ内地に居て、不愉快な仕方がなかつた。だいたい僕は悪い癖で、一口に「彌次馬」の年に生れたから」と言ふが、事実は、一軍一どころか、民族の運命であり、世紀の主題なのである。事を好むばかりに真実たる幸福を感じてゐたものが、この戦争に忘れられ、近よれないのは悲しい。そんなことを、思ひあまつて何處かに書いて、それが活字になるよりも早く、現場へ来て、僕は中支戦線へ来てゐた。まことに真実たる幸福をあらためて感謝したことであつた。

それから十ヶ月、戦争もいくらかわかるやうになり、弾丸の音の聞き分けが始まつて、敵の手と一筋に攻撃前進について行つた。雀が何十羽と集まつて、朝を喜んで居りでもするやうに、チエウチウチエウと聞える弾丸の間をぬつて、一人また一人、ツツツと走つては伏せる。真実とするのにもすくなくとも五秒から十秒はかかる。この間にあたるとなると好いと、覺悟をきめざるを得ない。

展開して攻撃前進する兵と共にゆくことは、それほど恐ろしいことではない。あとで考へると気がわるいが、別に昂奮もしないで、冷静な氣持でついてゆける。しかしひとたび本格的に敵から身をかき、全く安全な地位に立つと、非戦闘員の自分にかへるものか、今度飛びださうとする、實に恐ろしい。分隊と三十米の距離がはなれてしまつては、もうその分隊に追いつく度胸がなくなる。僕と名取氏は、そのやうにして、途中で前進することが出来なくなつた。兵隊に比べて取柄の悪い話だ。その時、僕は生れつきのスロー・モーションの故に、完全な生命をひるして、自分ながら嬉しくて、滑稽だつたが、それが殊にいけなから、僕等はそこにへばりつき、あとは望遠レンズに頼つた。

たへを判じたり、所謂「戦機」とはこれだと思つたり、動かさざること山の如しの、武田信玄が好きになつたり、わかつたやうなことを言つたり、古い苦勞を共にした兵隊に別の戦線で逢つたり、部隊を渡つて一宿一飯にありつく呼吸、いはゞ仁義も覺えた。

だが、悲しいことにはその間にいろいろのもの、個性になり、ろくな真実もとれないまま、感じがよくなるやうにしてゐる。はじめて弾丸の下でシヤッターを切つた時の熱情と興奮が失はれ、器用に要領よく、兵隊で言へば戦士上手になり、弾丸にあたる率もすくなくなつたと思ふ。はじめての時、シウシウツと来てゐた弾丸が、鼻の先の樹の幹にあつた。パシツと音を立て、僕は無意識にバツと顔を伏せた。顔をさげたつと間に合ふわけではない。支那さんへお辭儀をするだけの話だが、その時は火野軍曹と一筋で、僕のその光景を「愛と兵隊」に書かれてしまつた。

火野軍曹は常に新鮮な物を感じる。彼はよく物に感心する男で、驢馬の鳴き聲などには感心してゐたのだが、つまり詩人だからであらう。「愛と兵隊」に終始行を共にし、殆ど同じものを見、同じものを食つて、彼は僕の五倍も考へてゐる。過去に兵隊であり、それまでに半歳を戦線に送つた彼とつての方が、僕に感じられるよりも戦争と兵隊とが新鮮だつた。それが彼の作品である。詩人と言ふものは感心なものである。

断續する敵のさくり打ちが、激しくなり、弱くなる。煙燭のわづかなあかりに、隊長をかこんで命令受領者達が緊張した顔をよせる。斥候が歸つてくる。味方の陣する寒地と敵の一文宇高地との中間にあるクリクの深さを、自分ではいつてみてさぐり、あちらこちらに最良の渡河点をさがし求め、腰から下は濡れになつて歸つて来たのである。ナシ慌ての、口の下手な龜田と言ふ一等兵で、しかもその報告の内容は、微細であり具體的である。命令受領の場所と〇米ほど離れて、通信隊が電話器についてゐる。本部から明日の打合せに隊長を呼びだし、隊長は主張すべきに何かしら指さしてゐるところを寫した。



三十秒後、敵等は前進した。しかし次の瞬間少尉は機關砲に、手足を首をやられた。七八米歩いたばかりのところである。少尉が機銃をうけてゐるところを、僕は寫した。しかし、そのフィルムだけは、カットしてしまひたい氣持になつた。昨日内地から補充されてきた五人のうちの一入である。

とを強硬に述べてゐる。命令受領が終ると、傳令が間に吸ひこまれてゆく。戦車隊から連絡に来る工兵からも砲兵からもくる。そして夜をそく月もない中を、最近内地から補充されてこの隊に配属された少尉が五人、はる／＼と到着し、隊長と十分ほど話したつて、間に陣する所屬の部署へ消えてゆく。電話器は明日の天気豫報を受けてゐる。そしてすべてに伴奏するやうに、激しくなり弱くなる機銃の音。

寒い。夜明けにはまだ間があるのだからから、もう一度寝なければならぬ。小便をすればいからか暖かくなるだらう。起きる。歩哨がちつと動かない。ヒューと流弾が頭の上を通る。と、曳光弾がスワツと右翼へ飛んで、流星のやうに消える。「もう白がさうならぬぞ」と、歩哨が言ふ。曳光弾は赤だの青だの、射撃方向、襲撃などの命令をつたへるのだが、正面の敵の場合は、白が退却の合圖らしいと言ふのである。久しぶりに曳光弾を見て、僕は「愛と兵隊」の孫好で、敵襲に眼醒めた時を思ひだした。あの時は、これは大變だと思つてゲートルを巻いてゐる眼の前五六米のところ、曳光弾がスワツと来たのである。僕はそれが何を意味するどころか、そんな弾丸があると思ふことも、何もしらない。その時はじめてお眼にかゝつたのである。その色は赤かつた。

★生死

武漢はまだ／＼遠い。この調子で敵が頑強のものなら、いつまでかゝるものか、ちよつと見當がつかない。しかし上海戦が大場鎮陥落と共に、あとは次第に進撃になつて行つたやうに、何處かの線が破れば、あとは早にちがひない。大治の一線だらうと言ふのが、記者仲間の評判である。武漢攻略のはかどらないのを見ると、軍は或はるものが他にあまりにも多い。生死が平常の人生で嚴肅なのは、生きようとする本能と努力とが、純一無二の美しきを持つてゐるからであらうと思ふ。しかし戦争では、特に攻撃面の戦闘では、生きようとする「努力」は、敵を驚かすと言ふ「任務」の達成に代置される。その方が大きく重いのである。だからこの場合、死ぬことが恐ろしいなどと言ふことは、翻志ある兵隊には思ひもよらぬことらしい。彼等と言へども、時をへて考へてみれば、われながら恐ろしいことをやつてのけたのに驚くであらう。

戦場で生と死をみつめるのは、防禦の場合であらう。寡力よく奮ひつた敵の陣を、本隊の来るまで守りつづけることは、時に甚しき困難に遭ふ。こんな場合、自分の生きることが、陣地を守りつづけることであり、最重要な任務である。守りきれなかつたら死ぬ。文字通りの死守だ。襲撃された兵站線を死守する場合もある。

戦争の死は、運命があり偶然があることも事實にはちがひない。あまりにもさうした場合が多い。だから戦闘に訓練された兵隊ほど、細心な注意をはらふ。死を恐れるよりは、無駄になることを恐れる氣持だ。大抵、これが一番恐ろしい。にも拘らず、運命的に不運な、偶然にも残念な死がある。しかし運命も偶然もひつくるめて、翻志も敵意もひつくるめて、戦争の勝敗は力學的計算にのぼるものなのである。

昨夜の夜襲は別の隊で、われ／＼の隊は昨夜戦況はしてゐない。しかし二名の重傷者を出してゐる。それらの兵は吳淞クリク以来のものでもなく、當時自分ながら明日の生命を考へることのできなかつたものを、疵ひとつ負はずに、以来一年餘を戦線に送つてゐる勇士であるかもしれないのである。まことに戦線では、不思議な時に弾丸があつた。奇妙な時に弾丸があつて死ぬことがある。なかに變な兵隊があつて、上海戦で右手中指南京戦で左手軽傷、徐州戦で右足輕傷、今度では早くも右足輕傷、今度に四回病院へはいつていづれも軽く済んだと言ふのがあつた。そして漢口戦のためにつてあつた右足は、もう口あけに厄をすましたから、もう大丈夫だと笑つてゐた。奇妙な話であると思ふ。からした奇妙さは、死の場合にも當然起つてゐるのである。そんな場合、僕は戦争そのものの、壯烈さを、ひし／＼と感じないではゐられない。

その日の攻撃で、僕はライカとローライと二個のカメラで、約八十枚の寫眞をとつた。同行の名取氏は、色寫眞と普通寫眞とで、やはりその位とつたと思ふ。ナシ取りすぎるかも知れないが、この日は特別で、二人で徹底的にやるつもりだつたのである。

われ／＼は援護射撃に守られながら、分隊の兵

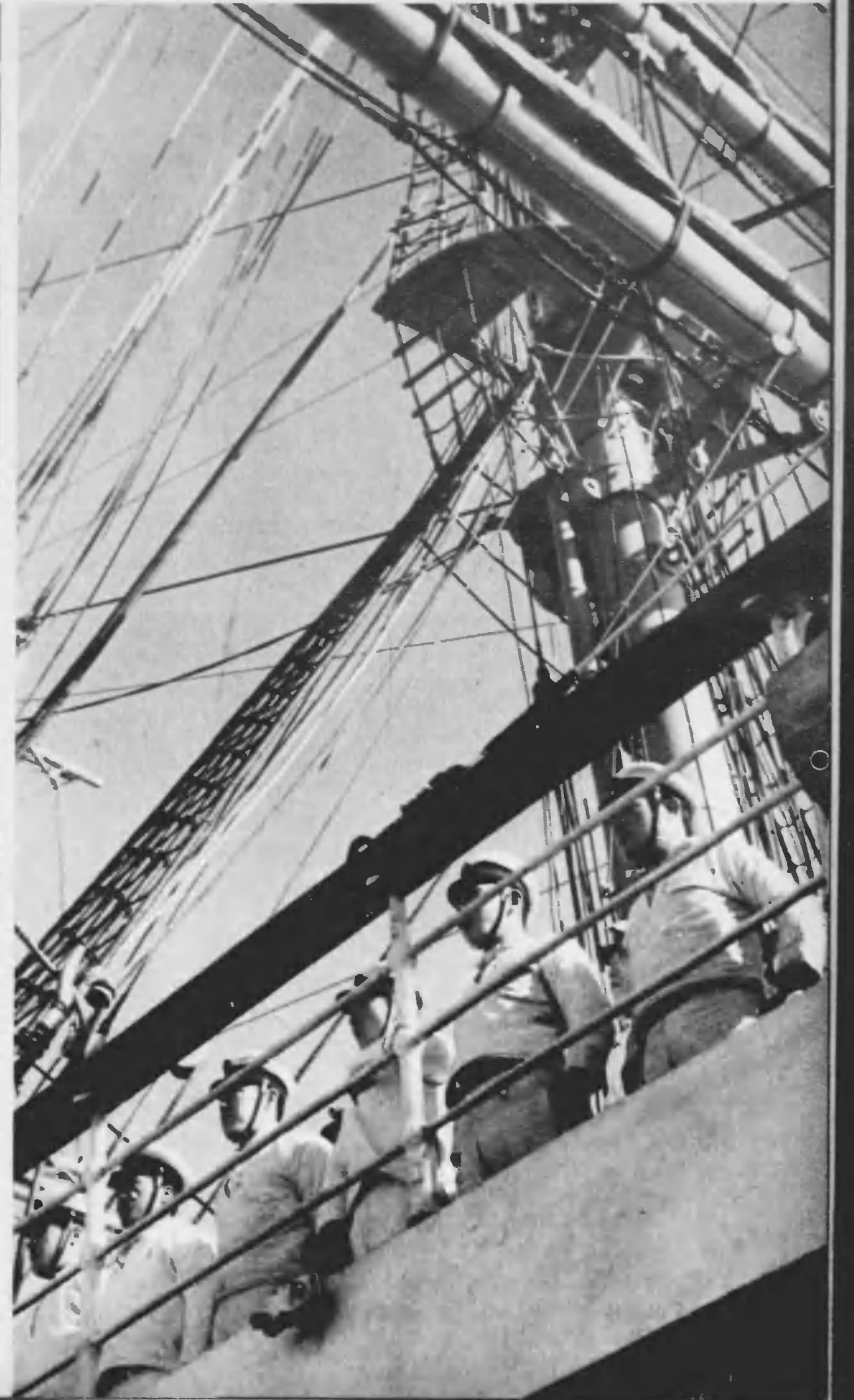
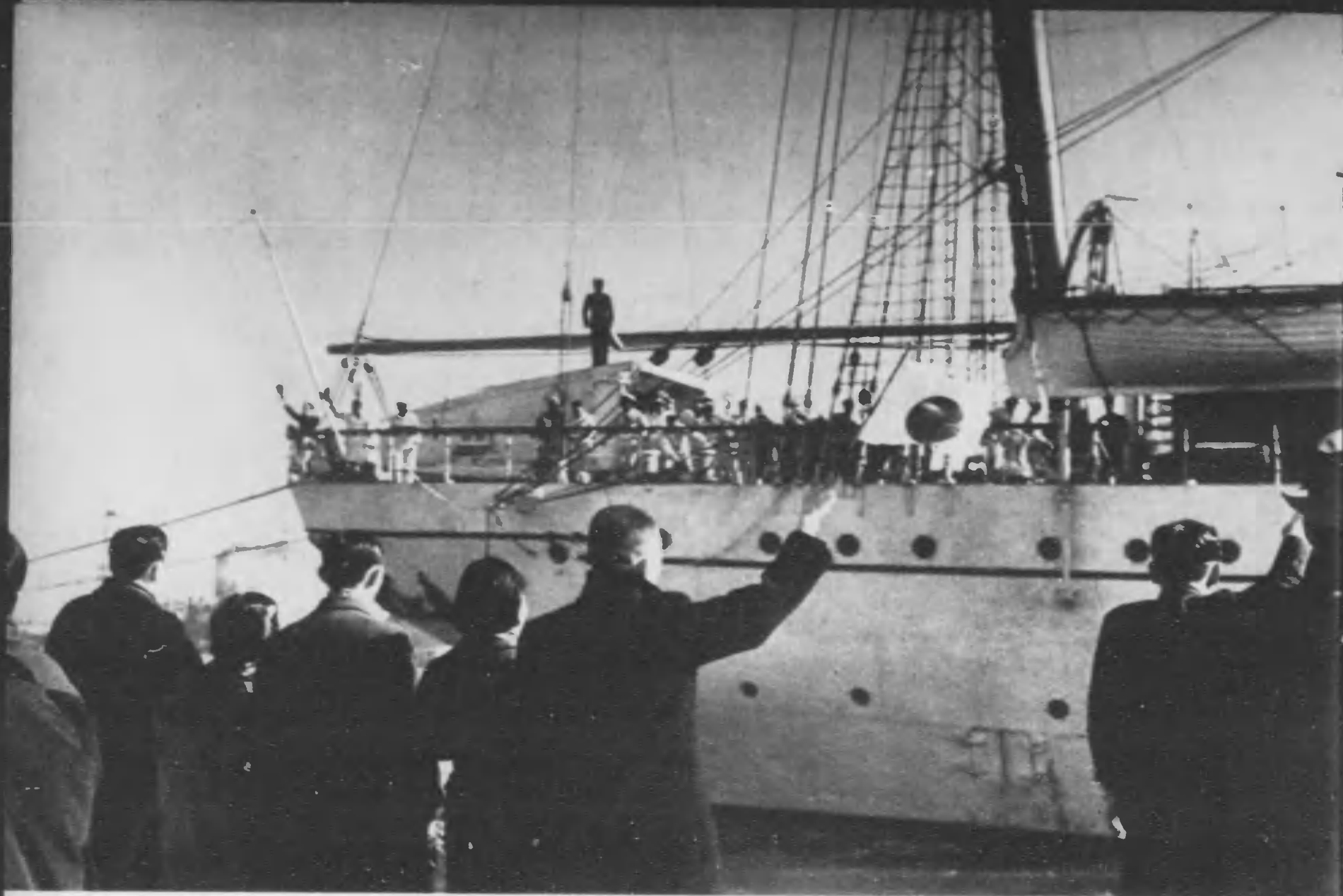
たへを判じたり、所謂「戦機」とはこれだと思つたり、動かさざること山の如しの、武田信玄が好きになつたり、わかつたやうなことを言つたり、古い苦勞を共にした兵隊に別の戦線で逢つたり、部隊を渡つて一宿一飯にありつく呼吸、いはゞ仁義も覺えた。

とを強硬に述べてゐる。命令受領が終ると、傳令が間に吸ひこまれてゆく。戦車隊から連絡に来る工兵からも砲兵からもくる。そして夜をそく月もない中を、最近内地から補充されてこの隊に配属された少尉が五人、はる／＼と到着し、隊長と十分ほど話したつて、間に陣する所屬の部署へ消えてゆく。電話器は明日の天気豫報を受けてゐる。そしてすべてに伴奏するやうに、激しくなり弱くなる機銃の音。

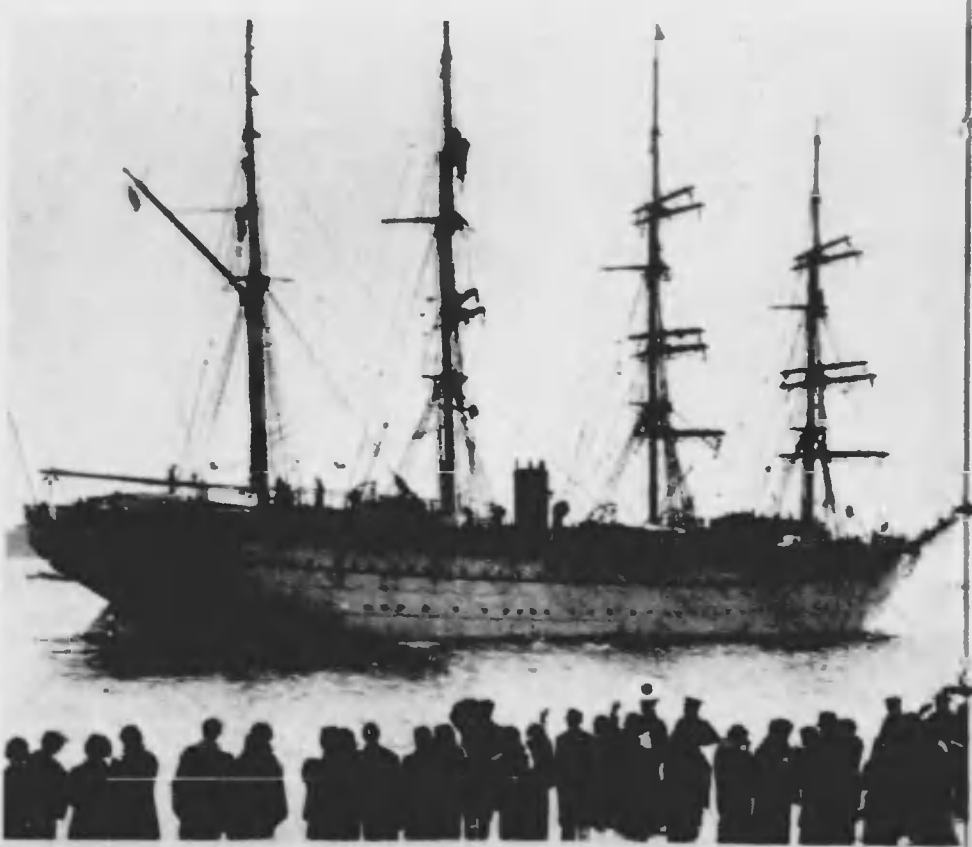
★ へ下の星字十南 ★

帆出港京東船習練省部文

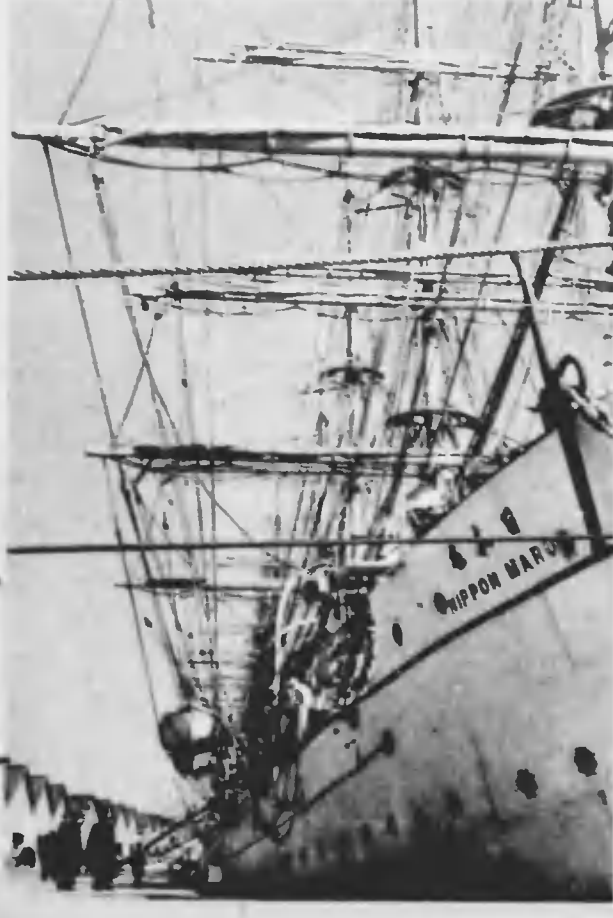
部報情開内 影撮



練習船 南海へ鹿島立つ
 黒潮おどる南の海をめざして日本丸、海王丸の二隻の文部省練習船は元氣一ぱいはち切れるばかりの若いマドロスを乗せて一月二十二日午前十一時東京芝浦岩屋を出帆、日本丸を先頭に晴れの第十九次遠洋航海の壮途にのぼった。
 日本丸は全国八つの公立商船学校航海科の卒業生等百十五名をのせて南洋群島サイ島とサイパン島へ、又海王丸は百十二名をのせて沖縄縣吳那覇と南洋群島トラック島へと鹿島立つた。全航程六千哩、三月二十日頃潮のけの海の子たちは東京に歸る。
 「文部省報」特派カメラマン松本英之助君も日本丸に乗船し出帆した。なほ一月十八日、日本丸から東京着電によれば、日本丸は豫定よりすつと早く、東経百五十三度、北緯三十一度の地点（小笠原の諸島北東）にあり、一回非常に元氣である。



寒風吹きすさぶ中を出帆位置につく。はり切つたその顔。その瞳。
 出帆直前の日本丸、後が海王丸。
 岩壁にうちふられる日の丸を眼の奥深くやきこんで「行つて参ります。」と御機嫌よう！





□ 豪快な快走スケート
 スケートの醍醐味はその
 素晴らしいスピードにあ
 らう。そこでこの快速をう
 らためベルリン近郊のスケ
 ート場では快走スケートが
 流行してゐる。スケートは
 風の向きによつて巧みに
 軌を切りつゝ、鏡のやうな
 湖面をヨットとスケートの
 二つの豪快な味をひつ
 物らしいスピードで滑り廻
 る。

□ 兼司は女工さん、
 夜は舞臺家
 ハーケンクローイツの旗が
 翻へるようになつてからオ
 ーストリアにもナチスの重
 要政策の一つである體位向
 上が喧しく叫ばれてゐる。
 首都ウィーンは流石ワルツ
 の都だけあつて、女工さん
 たちは夜になると公衆堂に
 集つて體位向上と健全な職
 業を兼ねて優美なウィンナ
 ーワルツを踊りつゞけて
 ゐる。



□ アメリカに世界一のダム竣工近し
 北米アリゾナ州のグランド川にかつて百萬の工費
 を投じて建設中のベルトランドダムが早くも八分通
 りの竣工をみた。このダムが竣工の際には二十萬エ
 ーカーの水を湛へる世界一の豪華なダムで、附近
 廣大な不毛の土地に灌溉して沃野と化さんとする合
 衆國の大開發計畫によるものである。

□ 杉村駐佛大使離國の途につく
 昨秋米病を得て静養中であつた前駐佛大
 使杉村龍太郎氏は歸朝することになり昨年
 十一月十四日フランス官民多数の見送りを
 受けて家族同伴パリを出發、故國に向つた。

□ 獨佛不可侵協定調印さる
 西曆十二月六日、獨外相リッペントロップ氏はバ
 リーを訪問、フランス外務省「時計の間」でガンネ
 佛外相との間に獨佛不可侵、非戰を旨とする歴史的
 共同宣言に署名を行つた。昔佛戰争、歐州大戦と五
 回に深刻な反目闘争をつゞけてきた獨佛兩國はかく
 てこの宣言を成として友好親善の嚮手を交すこと
 になつた。



滑つて転んで



① ←

1 ドイツ、ホツダム市郊外。とんがり帽子をちよこんと冠つてこれは天晴れ豆スキーヤー、「あたしはこれでも名譽あるドイツ小國民なのよ」

2 勿體らしくスキーを履いて、「そろそろ滑るわよ」でもちよつと腰付きが變ですわね

3 やつぱりいきませんね。なに、今日がはじめて？ それなら御もつとも、勇気に尻餅をおつきなさい。明日は滑れます



① →

1 これはアメリカ、セントルイス生れのメリー・ルー・リットルちゃんといふ生後わづか十五ヶ月の天才スケーターでございます。

2 床の上ならお茶の子さいさい。こんな狭いピアノベンチの上でさへ、なに平氣ですよ。

3 あッ！ たろ／＼ 轉んちやつた。あんまりスピードを出し過ぎたかな。でも大丈夫。こんなことでメリーちゃんか泣くもんですか



② →



② ←



③ ↙

写真協会

貯蓄報國には 金銭信託

経済戦の強化は 長期の貯蓄

信託協同社

読者のカメラ

神武天皇の御神霊に近づく庶民に
拜殿の御内まで参入御拜を差許さ
れる御原神宮の八社祭は小春日和
の一月十一日から記念すべき第一
回の御儀を執り行はせられた
建物の聖地は森の気満ち、参拜
の民草は感激のうちに皇國の輝榮
を祈り奉つた。

八社祭執行さる
京都市左京区 花野和三郎



読者のカメラ 応募規定

- 一、題材 國民精神、活動的、勇
一々とした報道写真、一枚に
ても組織的にても可
- 二、印象の大きさ、なるべくキ
ャペネ程度が好まし、裏面
に寫眞説明及び住所姓名明記
のこと
- 三、締切 毎週火曜日
- 四、賞品 内閣情報部賞牌又は
金五圓以上の賞金を呈す
- 五、応募作品は一切返戻せず、
また掲載写真の版権は常
務部に歸属す

大阪市役所
三百萬大阪市民の戦時市民生活
運動の活動状況は、既に数回寫眞
週報に掲載され、既に大阪府内各
地元の大阪市役所でも紹介され
ては入口の掲示板に寫眞週報のこ
の頁を貼出し、市民の働きが認めら
れたことを知らせました所、非常
な好評でした。

パッチ召しませ
岐阜縣津市町 星野清流
大陸の戦線に戦陣の活躍をつい
けるのが荒鷲部隊に對する感謝と
感激は、いまでも深く、町の少年少
女たちが軍用機庫納金募金のため
に街頭で愛用パッチを賣つてのた
ま、街を行く男も女もこの姿に
痛く胸をうたれて進んで買つて行
きます。

曲獲戦車の大行進
東京市岩根区 松田 傳
一月八日陸軍始戦式後戦車隊
の市中大行進は數萬市民の熱狂と
歡呼を巻き起したが、この行進に
加はつた曲獲戦車は、わが男
士の輝かしい戦功を生々しく市民
の胸に呼び起させた。

寫眞週報(禁傳戰)

昭和十四年二月二十五日印刷發行
編輯部 内閣情報部
發行部 東京市麹町區永田町
印刷部 東京市麹町區永田町
東京市麹町區大塚町

これは一體何だらうか？
漢口攻略戦に奮勇を擡て
たわが十五センチ榴弾砲の
砲身だ。敗戦に思ふ存分巨
弾を浴せかけた後、いま勇
士の手で鼓ゆいばかりに掃
き棄られた所だ。鼻ひてつ
べんに油をくつ、けた勇士
の顔がにっこりと向ふから
覗いた。
「こんどは何處へぶつ放し
てやるかなあ」
撮影 内閣情報部



同盟旬報

第七十四回同盟旬報發行
政府對支國交調整方針宣明
支那事變第七回論功行賞
露西情勢開始さる
注精衛國民黨を離脱す
米國對日新通商手交
伊佛伊協定廢棄を通告
米獨關係大戦以來の危機

主要記事

支那事變特設
一 議會、政治一般、政府、
政黨其他政治的、文化的
諸要素の活動、政策並各
方面の批判、政治、行政
關係、調査資料
一 經濟一般、殊に經濟政策
とその反響
一 世界各國事情、國際關係、
海外動向
一 三月二十日發行
一 四月六日發行
一 四月十三日發行
一 四月二十日發行
一 四月二十七日發行
一 五月四日發行
一 五月十一日發行
一 五月十八日發行
一 五月二十五日發行
一 六月一日發行
一 六月八日發行
一 六月十五日發行
一 六月二十二日發行
一 六月二十九日發行
一 七月六日發行
一 七月十三日發行
一 七月二十日發行
一 七月二十七日發行
一 八月三日發行
一 八月十日發行
一 八月十七日發行
一 八月二十四日發行
一 八月三十一日發行
一 九月七日發行
一 九月十四日發行
一 九月二十一日發行
一 九月二十八日發行
一 十月五日發行
一 十月十二日發行
一 十月十九日發行
一 十月二十六日發行
一 十一月二日發行
一 十一月九日發行
一 十一月十六日發行
一 十一月二十三日發行
一 十一月三十日發行
一 十二月七日發行
一 十二月十四日發行
一 十二月二十一日發行
一 十二月二十八日發行

法社同人 同盟通信社

★海外の全「同盟ニュース」の綜合編輯誌

★事實の正確なる記録!

★研究・批判・立案の基礎的資料!!

この十日間の出来事は? 世界の動きは? 皆さん
は新聞を御覧になつて「切實」を作りたいと御考へ
になりませんか。その大體面々な仕事を忠實に務め
るのが「同盟旬報」です。

各目的用途に従つて自在に活用出来るように整理され
て居ります。日刊新聞で見切れになつた記事の始末や補
綴されたい良記事も本誌に収録されて居ります。殊に今
日難でも知りたいた海外動向や國際關係記事は旬報の強
項です。時代の精確な記録、活きた資料として官廳、學
校、社會には勿論、眞實なる讀者の各書齋へ是非御購下
さる御切願いたします。

★實物見本進呈
(本誌先着の方に切手大封入物進呈)
(本誌先着の方に切手大封入物進呈)

申込所
東京市原町區錦町西八
九
法社同人 同盟通信社
郵便東京八五

東京新聞 昭和十三年三月二十一日 第三版 東京新聞 昭和十三年三月二十一日 第三版 東京新聞 昭和十三年三月二十一日 第三版



磨歯ブラック

他にありや！
この殺菌・薬効歯磨



八大専賣特許
クラブ歯磨の所有する歯磨のみの専賣特許

- 第一 殺菌素を含有せる歯磨
- 第二 OIL-100% を含有せる歯磨
- 第三 オゾン含有せる歯磨
- 第四 Oxidizing 過酸化水素を安定的な状態に於て含有せしめたる歯磨
- 第五 新殺菌剤クロールカルヴァクロールを含有せる歯磨
- 第六 新殺菌剤ヨードチモールを含有せる歯磨
- 第七 クロラミンを配合せる歯磨
- 第八 銀コロイドを配合せる歯磨

新殺菌剤ヨードチモールを配合せる歯磨
新殺菌剤ヨードチモールを配合せる歯磨
新殺菌剤ヨードチモールを配合せる歯磨
新殺菌剤ヨードチモールを配合せる歯磨
新殺菌剤ヨードチモールを配合せる歯磨
新殺菌剤ヨードチモールを配合せる歯磨
新殺菌剤ヨードチモールを配合せる歯磨
新殺菌剤ヨードチモールを配合せる歯磨

内閣印刷局印刷發行

(特許「特選」・A4特選安福は3大の商標)